



【1】 一種研開催報告

2025年2月20日から21日にかけて、豊橋技術科学大学において、A・P研究会の一種研が開催されました(写真1)。

今回のA・P研究会では、企業特集オーガナイズドセッション依頼講演6件、チュートリアル講演1件、A・P研/IEEE AP-S Nagoya Chapter共催特別講演1件、一般講演10件の、計18件の発表が行われました。

企業特集オーガナイズドセッションでは、ソフトバンク株式会社、AGC株式会社、電気興業株式会社、株式会社東芝、株式会社NTTドコモ、日本電信電話株式会社(NTT)、キーサイト・テクノロジー会社、株式会社KDDI総合研究所から、基地局アンテナ設計や量子技術を用いたアンテナの最適配置方法、伝搬モデリングやパラメータ推定手法など、多岐にわたる講演が行われました。



写真1 研究会の様子

【2】 チュートリアル講演

A・P研究会のチュートリアル講演では、株式会社村田製作所の上田英樹氏(写真2)が「ミリ波通信の実用化のためのアンテナ技術」と題し、携帯端末向けのAiM(Antenna In Module)技術におけるアンテナの小型化、高利得化、高EIRPに伴う不要輻射の課題に対し、フィルタリングアンテナ技術、線路の最短化、低損失な材料の使用、およびビームフォーミング技術などを取り入れた、ミリ波通信の実用に近い領域での各種アンテナ技術の事例が紹介されました。



写真2 左: 村田製作所の上田 英樹講師
右: A・P研究会委員長 榎原 久二男教授

【3】 A・P研/IEEE AP-S Nagoya Chapter共催特別講演

東芝の庄木裕樹氏(写真3)が、「AP研に支えていただいた40年～アンテナ研究からWPT制度化まで～」と題する講演を行いました。ご自身の初めてのA・P研での発表から、40年間にわたる研究会との関わりについて語っていただきました。



写真4 左: 名古屋工業大学 菊間 信良教授
中: 横浜国立大学 新井 宏之教授
右: 東芝 庄木 裕樹氏



写真3 左: 東芝 庄木 裕樹氏
右: A・P研究会委員長兼 AP-S Nagoya Chapter
Chair 榎原 久二男教授

【4】 A・P研3名の退職講演

2024年度の研究会では、長年にわたりアンテナ・伝播分野全体に多大な貢献をされてきた3名(写真4)の方による退職記念講演が行われました。

2024年10月のA・P研究会では、横浜国立大学の新井宏之教授による「AP研との40年」と題した講演が行われました。新井教授は、横浜国立大学の大学院工学研究院知的構造の創生部門において、アンテナ工学、マイクロ波工学、移動体通信の分野で多大な貢献をされてきました。写真5は2月28日に行われた新井先生の最終講義様子です。

2024年11月のA・P研究会では、名古屋工業大学の菊間信良

教授による「マトリクスに魅せられて40年」と題した講演が行われました。菊間教授は、名古屋工業大学 電気・機械工学科において、高速・高品質な無線通信や、高感度・高分解能な電波センサの実現を目指し、スマートアンテナの研究に尽力されてきました。写真6は3月14日に行われた菊間先生の最終講義後の集合写真です。

2025年2月のA・P研究会では、株式会社東芝の庄木裕樹氏が「AP研に支えていただいた40年 ～アンテナ研究からWPT制度化まで～」と題した講演を行いました。庄木氏は、アレーアンテナの設計や無線電力伝送(WPT)の制度化に関する分野で、多様な貢献をされています。

いずれのご講演においても、これまでの研究活動の歩みとともに、次世代の研究者へのメッセージが語られ、会場は感謝と敬意に包まれました。



写真 5 横浜国立大学新井宏之教授の最終講義



写真 6 名古屋工業大学菊間信良教授の最終講義後の集合写真

[5] 副委員長の戯言

◆ IEEEの会員情報とR10の分割

2月22日から23日にかけて、韓国・仁川のインスパイアホテルにて、年に一度開催されるIEEE R10の総会が、各セッションチェアの参加を中心に開催されました。私はA・P研究会の途中から抜け、仙台セクションの代表として仁川に向かい、本会議に参加しました。

会議で印象に残ったことは、IEEEの全世界の会員数が1月28日に50万人を超えたこと、そして2028年に向けて、現在のRegion 10 (R10) がR10とR11に分割される準備が進められているという点です。

現在、R10の会員数はおよそ21万人弱で、全IEEE会員の4割超を占めています。2028年からは図のように、R10とR11に再編され、中国、韓国、日本を含む北アジア地域がR10に、それ以外の地域がR11に分類される予定です。なお、今年のR10執行部の各委員会では、地域の多様性を反映する形でチェアを2名体制とし、北アジアと南アジアからそれぞれ1名ずつが選出されました。

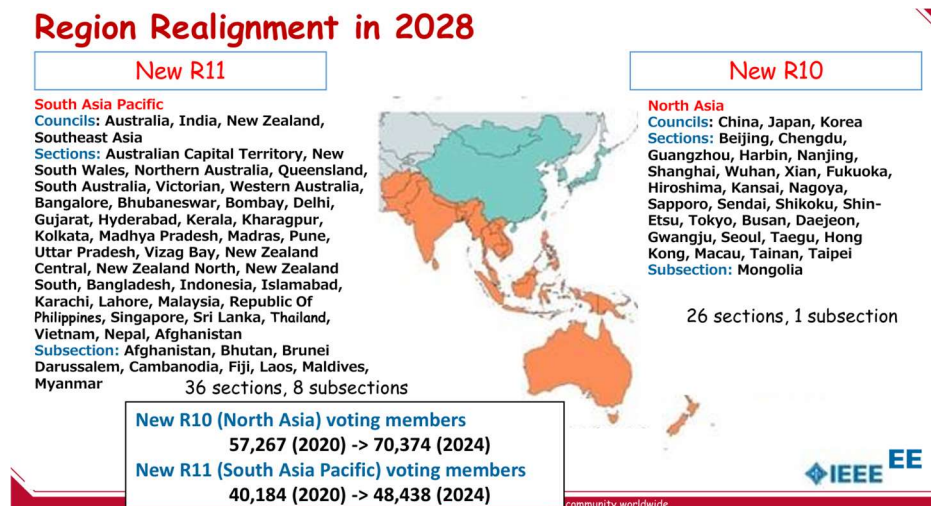


図 1 R10の分割

〈問い合わせ先〉

アンテナ・伝播研究専門委員会副委員長 袁 巧微 (東北工業大学)

E-mail: ap_ac-chair@mail.ieice.org (A・P研執行部のメールアドレス)

AP-NET: A・P研最新情報を毎月メールにてお届けします!! 登録はA・P研HPにて

A・P研HP: <https://www.ieice.org/cs/ap/>

